

特集

秋の愉しみ

目次

食・旅・紅葉の秋

先生おすすめの一冊

読書の秋

学生おすすめの一冊

2022年度上半期貸出ランキング

図書館からのお知らせ

秋の企画展示

ドリンクコーナーを設置しました

図書館公式 Twitter 開設!

編集後記

紙面をリニューアルしました! /

秋の愉しみ

菓子で思いを伝えてみませんか

濱崎 加奈子

和菓子のなかでも茶席菓子は、食べる相手の顔を思いうかべながら一席ごとに作られる。食べる時間、光の具合、器によっても、菓子の表情は異なる。餡ひとつとっても、さらず回数により舌ざわりは変化するし、そもそも小豆は畑の畝ひとつで違うというのだから、この世に一つとして同じ菓子は存在しないといっても過言ではない。そんな茶席菓子も、デパートで手軽に購入出来るようになったのは嬉しいことである。だが本来は「相手」あつての菓子であり、一席ごとにオーダーするものである。ということは、食べる側である私たちが、求める味とデザインの意図を職人さんに伝え、また見本が出来てきた時に最良の菓子になっているのかどうかを判断する能力がなければならない。つまりは、材料や製法、表現の仕方までも、食べるごとに頭と体内に蓄積しておかねばならない、ということである。そのようにして、相手をもてなす心の積み重ねによって、世にも稀な芸術的な食の文化が、この京都に生み出され、伝えられてきたのだ。

秋はとりわけ、菓子が面白い。あの人に食べてもらいたい菓子をオーダーするとすれば？
などと考えながら、本をめくってみてはいかが。
(和食文化学科 准教授)



『京都和菓子めぐり』
鈴木宗康ほか著、淡交社、2014.4
(請求記号 588.361|S)

温泉旅行と鉄道

松田 法子



『温泉案内』
鉄道省[編]、博文館、1940.3
(請求記号 291.093|T)

旅行や観光はいつ頃から日本人の生活へ本格的に組み込まれたのだろう。大体それは昭和初期頃のこと、鉄道などマス交通機関の発達と切り離せなかったと言えそうだ。鉄道省発行の分厚い書籍『日本鉄道史』(大正10年)をひもとけば、官設・私設の鉄道網が明治期以降いかに急速に列島中へ広がったかが一目でわかる。近代日本で旅行文化の醸成に大きな役目を果たしたのは、鉄道省、交通・旅行関係の協会や公社、新聞などのマスメディアで、かつこれらがスクラムを組んだその体制だった。鉄道省は『温泉案内』など路線ごとに目次立てされた旅行指南書を次々と刊行、現代まで続く雑誌『旅』(日本旅行文化協会)も大正末期に創刊される。早くも明治末には新聞社が世界一周旅行のキャンペーンを仕掛けていた。

鉄道旅行の普及は文学や思索の展開にも深く関わる。志賀直哉『城の崎にて』には京都から伸びる山陰線の開通が不可欠だったし、川端康成『雪国』の「トンネル」は上越線清水トンネル。『蒲団』などで知られる自然主義作家の田山花袋は、そのキャリアの初期から『温泉周遊 東の巻・西の巻』など紀行文や旅行案内を多数手掛けていた。鉄道を駆使して描かれる作品群は、旅行と作家の二人三脚ぶりをあらわにする。
(環境デザイン学科 准教授)

秋になるといろいろな果実が熟し、森の中も賑やかになります。その中で、「どんぐり」は子供の頃から親しみのある私達に最も身近な果実の一つといえます。どんぐりは、植物学的にはブナ科樹木の果実であり、硬い果皮をもった果実「堅果」と、その下側が帽子のような「殻斗」に覆われているのが特徴です。日本には約20種類のどんぐりの木が分布しており、歴彩館隣の京都府立植物園では、すべての種類のどんぐりの木を見ることができます。

『世界のどんぐり図鑑』(平凡社)では、著者の徳永桂子さんが世界のどんぐりの木を訪ね歩いてスケッチした、さまざまな種類のどんぐりを楽しく学ぶことができます。パイナップルのようにトゲトゲの殻斗に覆われたどんぐり、黄金のベールにまもられたどんぐり、動物の糞そっくりな殻斗に覆われたどんぐり。。。。そんなどんぐりの木達の世界のどこに分布しているのか、どんな変遷をたどってきたのかなどについても、元千葉県立中央博物館におられた原正利さんが最新の研究成果を交えて分かりやすく解説しています。

この秋、『世界のどんぐり図鑑』を手にとって、こころの世界旅をしてみませんか？

(森林科学科 准教授)



『世界のどんぐり図鑑』
徳永桂子著, 平凡社, 2020. 11
(請求記号 657.85|IT)

自分の「可能性」を探求してみようー竹田青嗣氏『ハイデガー入門』ー

西明 正晃



本書はドイツの哲学者ハイデガーの功績と課題を簡潔に描き出した労作である。ハイデガーは無意識下に置かれた自己選択を意識下に取り戻して、世間や伝統に流される「頹落」状態の克服を目指した。これは型にはまった自分を解体して新たな自分を創造することを意味しているから、未来を担う諸氏の「可能性」を見出すための方法として参考になるだろう。見出された「可能性」によって諸氏の「個性」が更に発揮されることを願ってやまない。(文学研究科 史学専攻 博士後期課程)

『ハイデガー入門』 竹田青嗣著, 講談社, 2017.4(請求記号 134.96|IT)

いつもと違う場所を楽しもう！

久保 希実



私が紹介する本は高知県に観光客を呼び込むため県庁職員達が奮闘するというストーリーです。この本は、登場人物の言葉が高知の方言で書かれている点の特徴です。この方言によって臨場感が増し、読んでみると温かい気持ちにもなれます。また、話の中に旅の醍醐味がふんだんに詰め込まれていて、読んでいるうちに旅行に行きたくくなります。普段足を延ばさない新しい土地を訪れるきっかけとしてこの本を薦めます！

(公共政策学部 福祉社会学科 1 回生)

『県庁おもてなし課』 有川浩著, 角川書店, 2011.3(請求記号 913.6|A)

2022年度上半期 貸出ランキング

1



貸出回数 **9** 回

「世界史」の世界史

秋田茂ほか編著
ミネルヴァ書房, 2016.9
請求記号:201.1||A

MINERVA 世界史叢書の総論にあたる一卷。
多岐にわたる視点から世界史を見直すこのシリーズ
を読むためにはまずここから。

2

貸出回数 **6** 回



そして、バトンは渡された

瀬尾まいこ著
文藝春秋, 2018.2
請求記号:913.6||S

2019年本屋大賞受賞作品。
2021年には映画化された話題の
原作。



流浪の月

尻良ゆう著
東京創元社, 2019.8
請求記号:913.6||N

2020年本屋大賞受賞作品。
2022年には映画化された
話題の原作。

貸出回数 **5** 回

心理学 人間関係編
140||Y

20代にしておきたい
17のこと
159.7||H||1

古代東アジアの仏教と王権：
王興寺から飛鳥寺へ
182.2||S

京都愛宕山と火伏せの祈り
188.59||Y

藤原仲麻呂と道鏡：
ゆらぐ奈良朝の政治体制
210.35||S

アイヌの歴史：
海と宝のノマド
211||S

網野町史 復刻版
216.2||A

網野町誌 上, 中巻
216.2||A||1, 2

京都冷泉町文書 第3巻
216.2||K||3

京都府熊野郡誌 復刻版
216.2||K||9

丹後國竹野郡誌 新訂版
216.2||K||10

満洲におけるロシア人の
社会と生活：
日本人との接触と交流
334.538||S

戦後京都府同和教育史
361.86||K||3

就活難民にならないための
大学生生活30のルール 最新版
377.9||T

帝国日本の大陸政策と
満洲国軍
392.225||O

植物生理学 第2版
471.3||M

キリン解剖記
489.87||G

発達障害
493.76||I

食品加工貯蔵学
498.5||S||7

都市の空間史
518.8||I

「現代町家」という方法：
家づくりで町かどの風景を
変える
521.86||C

怖い絵 [1]
723||N||1

むらさきのスカートの女
913.6||I

夜は短し歩けよ乙女
913.6||M

52ヘルツのクジラたち
913.6||M

推し、燃ゆ
913.6||U

スマホ脳
498.39||H

一昨年、昨年の同時期はコロナ禍の影響で貸出回数が一万回を下回りましたが、今年は回復傾向にあります。本屋大賞や各文学賞受賞作品、近年映画化された文芸書の貸出が多く、人気うかがえます。企画展示コーナーに置いていた図書もランクインし、ご覧いただいている実感があります。



秋の企画展示



京都府立大学附属図書館 秋の企画展示

カフェ文化、 コーヒーの楽しみ方

秋の夜長に、
美味しいコーヒーと
読書はいかがですか？

展示期間
2022年10月1日(土)
～12月16日(金)

附属図書館の館長 小林啓治教授による講演会「京都のコーヒー文化―百年の歴史を味わう」に関連して、カフェ・喫茶文化、コーヒーの歴史など、すぐに喫茶店に行きたくなるような、コーヒーそのものの楽しみにも触れられるような本を準備しました。
どなたでも附属図書館にご自由にお入りいただけますので、ぜひ手に取ってご覧ください。

ただいま企画展示コーナーでは、館長 小林啓治教授による講演「京都のコーヒー文化―百年の歴史を味わう」(下記参照)に関連し、コーヒーや喫茶文化についての図書を展示しています。秋の夜長、読書の合間に飲む一杯へ思いを馳せてみませんか。

期 間 10月1日(土)～12月16日(金)

場 所 2Fフロア 開架雑誌棚の上部スペース

テーマ 「コーヒーの歴史、楽しみ方」
「カフェ、喫茶文化(日本と欧米)」
「コーヒーが飲みたくなる本」
「お茶派のあなたへ」

職員によるおすすめ図書



栽培や消費、各国の文化、産業についてなど、コーヒーの歴史がわかりやすくまとめられている1冊。巻末にはレシピ集が掲載されており、あまり時間やお金をかけずに自宅で美味しいコーヒーを淹れるヒントが満載です！

『コーヒーの歴史(「食」の図書館)』ジョナサン・モリス著；龍和子訳、原書房、2019.5
(請求記号 383.889||M)



館長 小林啓治教授による講演が行われました

京都府立京都学・歴彩館主催「下鴨中通 ブックフェア2022」のイベントの一環として、館長 小林啓治教授による講演会「京都のコーヒー文化―百年の歴史を味わう」が、2022年10月9日(日)に京都学・歴彩館大ホールにおいて開催されました。当日は、大学の街・京都のカフェ文化を紐解きながら、すぐに喫茶店に足を運びたくなるような、コーヒーそのものの楽しみにも触れるような内容が語られ、参加されたみなさんは時間を忘れて熱心に耳を傾けられていました。



ドリンクコーナーを設置しました

館内で水分補給ができる「ドリンクコーナー」を、図書館2階フロア(コインロッカースペース奥)に設置しました。下記にご注意の上、ご利用をお願いします。

- 持ち込めるのはキャップ付き飲料のみ
- 図書資料は持ち込み不可
- 会話はお控えください
- 飲み終わった容器はお持ち帰りください
- 食事は不可(歴彩館1階の「ほっとスペース」をご利用ください)



Twitter アカウント開設のお知らせ

図書館の公式Twitterアカウントを開設しました。おすすめの図書や企画展示、利用案内など図書館からのお知らせを発信していきます。Twitterアカウントをお持ちの方はぜひ、フォローをよろしくをお願いします！

◆アカウント名

京都府立大学附属図書館(@kpu_library)



◆運用について

京都府立大学附属図書館公式アカウント運用方針

<https://www2.kpu.ac.jp/toshokan/news/2022/20220901news.html>



編集後記

今号は実に34年ぶりの誌面一新です。これまでの格調高い内容は、それはそれで貴重なのですが、コロナ禍の経験をふまえ、みなさんにとって利用しやすい図書館をめざす活動の一環として、大幅な模様替えを試みました。ただ、一箇所だけは旧来の体裁を引き継いだところがあります。タイトルを「なからぎ」に改題した101号で、日本古代史の泰斗・門脇貞二学長が書かれた題字はそのままです。これまで執筆者や編集にあられた方々の努力や思いを継承しながら、新鮮かつ柔軟な誌面の編集を行っていきたいと思います。

(館長・小林啓治)

『なからぎ』京都府立大学図書館報 239号 ISSN:1344-5561

2022年10月発行 編集発行人:小林啓治

発行所:京都府立大学附属図書館 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

[TEL] 075(703)5128~5131 [FAX] 075(703)5192 [HP] <https://www2.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html>

